

2020.10.20(火) 城崎地域・港地区

会場:城崎庁舎 大会議室

地域住民対象

小中学校のあり方

# 意見交換会

豊岡市教育委員会



# 次第

1. あいさつ
2. 小中学校のあり方についての検討
3. 児童生徒数の推移と複式学級
4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)
5. 保護者の意見(保護者向け意見交換会から)
6. 意見交換
7. アンケート

# 1. あいさつ

1.あいさつ

# 豊岡の教育のめざす姿

## コミュニケーション教育

小学校 6年  
「転入生がやってきた」



中学校 1年  
「ジェスチャーで場面作り」



## **2. 小中学校のあり方についての検討**

## なぜ検討が必要なの？

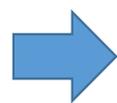
**少子化が進み、同級生が極端に少ない学年や複式学級が増えています**

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"><li>● 児童・生徒の一人ひとりに目がゆきとどきやすく、きめ細かな対応がしやすい。</li><li>● 学校行事や部活動等で、児童・生徒一人ひとりに個別の活動機会が与えられやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。</li><li>■ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団活動に制約が生じやすい。</li><li>■ 部活動の部員の確保が難しい。<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 部活動の数が減り、選択肢が少ない。</li><li>➢ 試合に出られない。</li></ul></li></ul>
生活面	<ul style="list-style-type: none"><li>● 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。</li><li>● 異学年間の縦の交流が生まれやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</li><li>■ 集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある。</li></ul>

## 2.小中学校のあり方についての検討

# なぜ検討が必要なの？

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
【学校運営】	<ul style="list-style-type: none"><li>● 全教職員間の意思疎通が図りやすく、連携が密になりやすい。</li><li>● 学校が一体となって活動しやすい。</li><li>● 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 教員の配置人数は学級数で決まるため…<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 一人当たりの教員の負担が大きくなる</li><li>➢ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい（専門的な学習にも影響）</li></ul></li><li>■ 複式学級で授業を進めるためには特別な指導技術が必要。</li><li>■ 運動会や文化祭等の運営に課題が生じる。</li></ul>
【その他】	<ul style="list-style-type: none"><li>● 保護者や地域社会との連携が図りやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ PTA活動等、保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。</li></ul>



**小規模校の良さもあるが、学校規模が小さくなりすぎると課題の方が大きくなる**

## なぜ検討が必要なの？

### 保護者の不安

- ◆進学後や社会に出た時など、大勢の中で馴染めるか不安。
- ◆同級生がいない。
- ◆複式学級が不安。

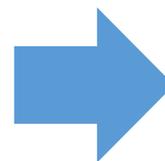
⇒ **他の学校区へ転居する事例も**

昨年の教育懇談会では、「地区では統合の話を出しにくい。市主導で方針を示してもらえないか。」という意見も。

## 2.小中学校のあり方についての検討

### 市教育委員会では、どのような検討をしているの？

「豊岡市立小中学校適正規模  
・適正配置審議会」を設置して  
審議中



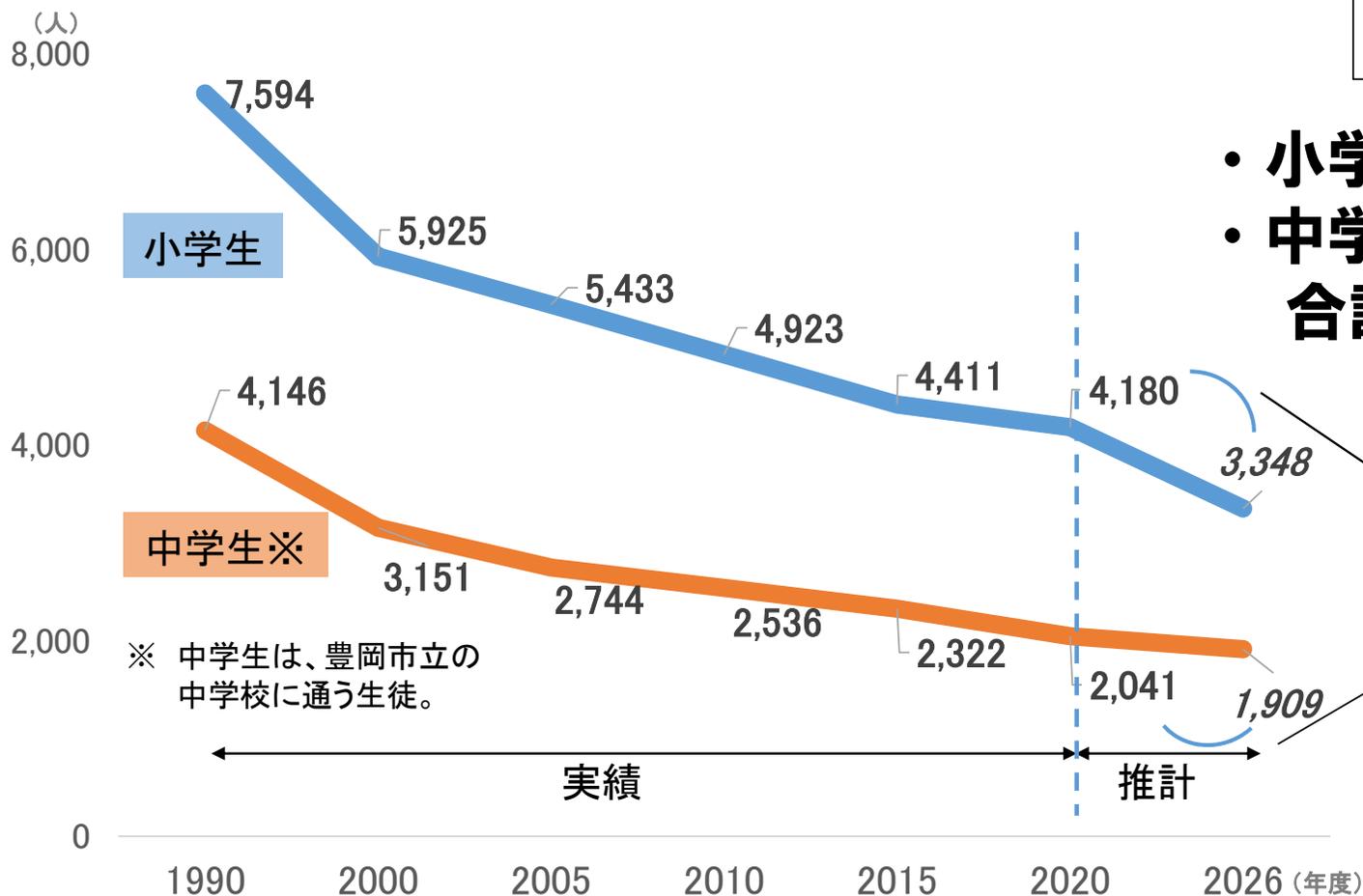
2021年2月  
答申予定

小中学校の再編を視野にいた検討

### **3. 児童生徒数の推移と複式学級**

### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

## 児童・生徒数の推移



1990年⇒2020年

・小学生 3,414人 減  
 ・中学生 2,105人 減  
 合計 5,519人 減 } 約 1/2

さらに  
 2020年⇒2026年  
 6年間だけで  
 【小+中】  
 964人 減 (見込み)

※ 中学生は、豊岡市立の中学校に通う生徒。

実績

推計

兵庫県教育委員会 統計資料(各年5月1日現在)  
豊岡市住民基本台帳(2020年4月8日現在) より

### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

## ○公立学校の学級編制(複式学級)基準 (兵庫県の基準)

項 目	小 学 校	
単式学級	35人 (第1学年)	40人 (第2～6学年) ※ただし、第2～4学年は弾力的取り扱いにより 35人学級編成
複式学級	14人 ※2つの学年で (第1学年を含む場合は、8人)	

### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

## 複式学級での授業の様子

教室の前と後ろを使って  
2つの学年が別々に授業  
を行っています。



### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

## 複式学級での授業の様子



2年生

3年生

教室の前では、担任の先生と一緒に国語の学習に取り組んでいます。

教室の後ろでは、別の学年の子どもたちが国語の教科書の音読を行っています。

### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

# 城崎地域・港地区の各学校別学年 人数と今後の見込み

兵庫県教育委員会 統計資料(2020年5月1日現在)

豊岡市住民基本台帳(2020年4月8日現在)

### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

城崎地域・港地区

## 城崎地域・港地区の各学校別学年人数と今後の見込み

### 2020年度

単位：人

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童数 合計	複式 学級数	クラス数	備考
港東	9	11	8	5	9	8	50		6	3-4複式解消
港西	7	8	7	5	9	6	42	1	5	3-4複式 5-6複式解消
城崎	18	31	27	22	37	18	153		6	
合計	34	50	42	32	55	32	245			

### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

城崎地域・港地区

## 城崎地域・港地区の各学校別学年人数と今後の見込み

### 6年後(2026年度)

単位:人

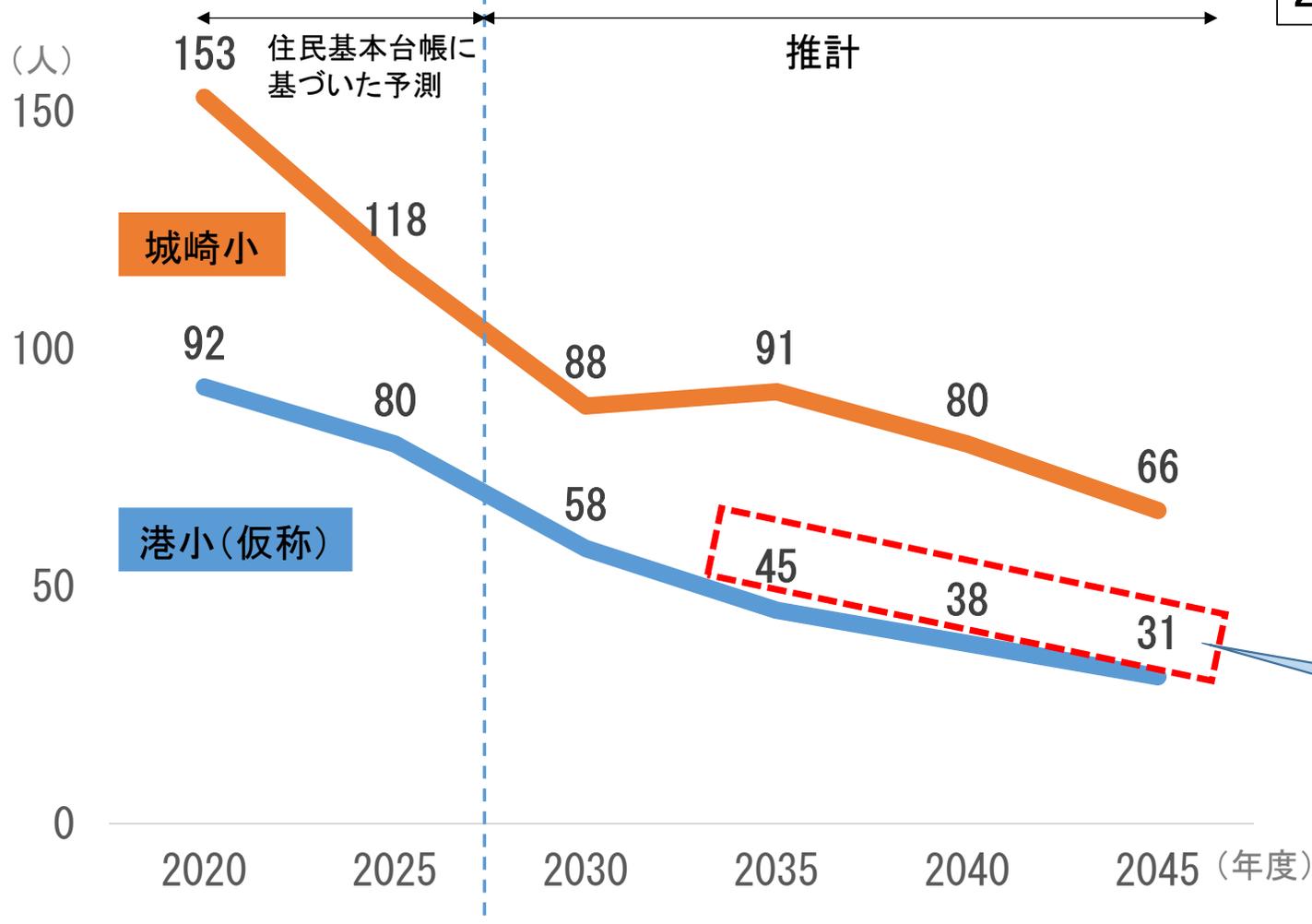
小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童数 合計	複式 学級数	クラス数	備考
港 (仮称)	13	10	16	13	17	8	77		6	2021年度 港東小、港西小 統合
城崎	12	15	17	22	21	25	112		6	
合計	25	25	33	35	38	33	189			

### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

城崎地域・港地区

## 児童数の今後の見込み（2020年度推計）

2020年度⇒2030年度



○城崎小  
**65人減  
(42.5%減)**

○港小(仮称)  
**34人減  
(37.0%減)**

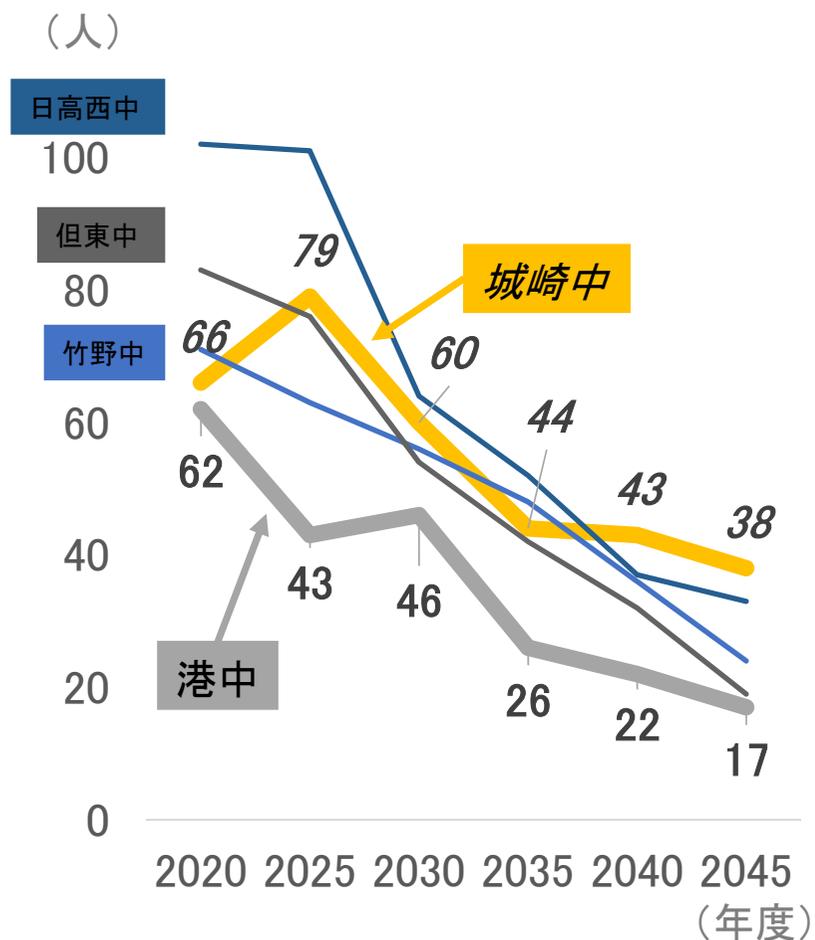
港小(仮称)  
2035年度前後には複式学級  
が生じる可能性

### 3. 児童生徒数の推移と複式学級

城崎地域・港地区

## 中学校別生徒数の今後の見込み（2020年度基準）

学校名	中1	中2	中3	生徒数 合計	学級数
港中	19	16	27	62	3
城崎中	23	25	18	66	3
豊岡南中	197	182	176	555	15
豊岡北中	164	162	195	521	13
竹野中	24	29	18	71	3
日高東中	105	130	108	343	10
日高西中	28	37	37	102	3
出石中	77	92	69	238	7
但東中	25	31	27	83	3
合計	662	704	675	2,041	60



# **4. 小中学校適正規模・適正配置の 考え方と再編の枠組(案) (現時点での検討案)**

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

### 豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

## 1 適正規模

### (1) 理想とする姿

**ア 小学校 12～18学級(1学年あたり 2～3学級)**

**イ 中学校 9～18学級(1学年あたり 3～6学級)**

(各学年でクラス替えができる複数学級を確保)

※文部科学省の『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』で示された目安

### (2) 最低限確保したい学校規模(下限の目安)

**ア 小学校 全校児童120人程度以上(各学年20人程度以上)**

**イ 中学校 全校生徒 60人程度以上(各学年20人程度以上)**

(単学級でも複数のグループが編成できる人数を確保するための必要人数を確保)

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

### 豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

## 2 適正配置

### (1) 通学時間

**小・中学校とも概ね1時間以内とする。** ※遠距離では、交通手段の確保が前提

### (2) 再編の枠組み

**地理的要因・社会的背景を考慮した学校配置とするため、**

**ア 小学校 原則、同一中学校区内とする。**

**イ 中学校 原則、旧市町域内とする。(ただし、港・城崎は除く)**

**また、旧市町域内に1校は存続させる。**

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

### 3 再編の進め方

#### (1) 複式学級の解消を最優先

対象

ア 既に複式学級がある学校

イ 近い将来、複式学級が生じる学校(10年程度)

#### (2) 将来を見据えた **検討** を開始

対象

ア 小学校 全校児童120人程度

イ 中学校 全校生徒 60人程度

下回る

⇒ 地域との調整を始める(統合検討委員会の設置等)

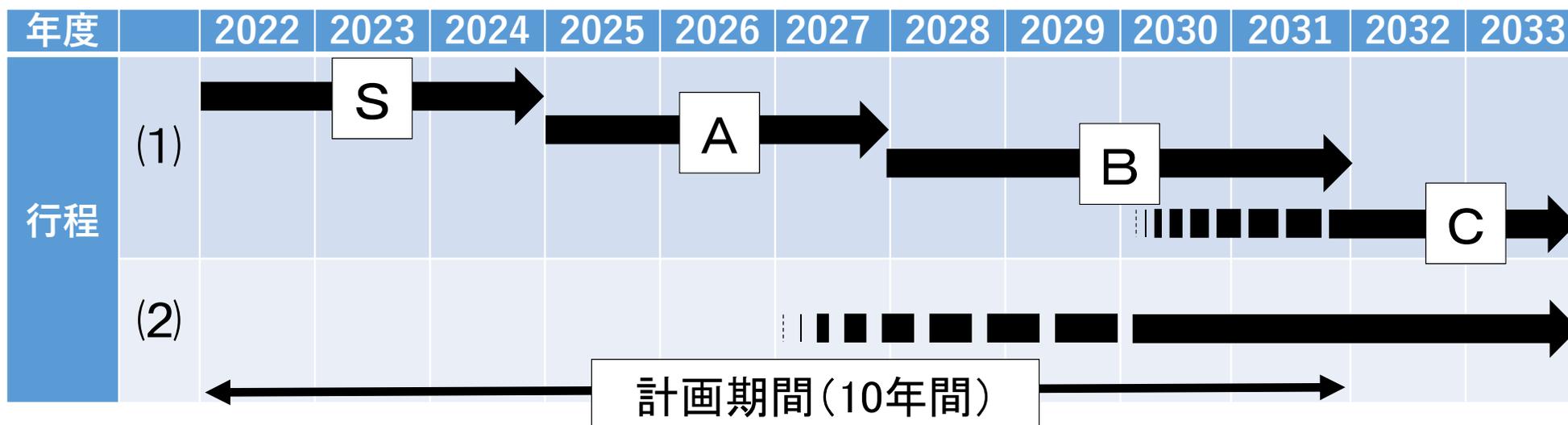
#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

### 豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

## 3 再編の進め方

- (1) 複式学級の解消
- (2) 将来を見据えた検討

### ◇年次計画(イメージ)



S: 最優先

B: 5~10年後

A: やや急ぐ

C: 10年以降(計画期間内に協議を開始)

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

### 豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

## 4 これ以上再編が困難な場合の教育課題の軽減

地理的要因等により、再編を進めることが難しい場合、多様な考えに触れるための対応策として次の項目について検討を進める。

# ICTの活用による学校間交流や

# オンライン授業の検討



#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

# 再編の枠組み案 (現時点での検討案)

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

### 城崎地域・港地区の場合・・・

検討対象校	枠組(案)	優先度
港中学校 城崎中学校	港中＋城崎中	B
港小学校 (仮称)	(港東小＋港西小) ＋城崎小	C

S: 最優先      B: 5～10年後  
A: やや急ぐ    C: 10年以降(計画期間内に協議を開始)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

市全域での検討は・・・

検討対象校	優先度	検討対象校	優先度	検討対象校	優先度
中竹野小学校	S	小野小学校	A	港小学校(仮称) (港東小+港西小)	C
竹野南小学校	S	合橋小学校	A	三方小学校	C
八代小学校	S	資母小学校	A	清滝小学校	C
静修小学校	S	中筋小学校	B	小坂小学校	C
寺坂小学校	S	港中学校	B	日高西中学校	C
高橋小学校	S	城崎中学校	B		

S:最優先

B:5~10年後

A:やや急ぐ

C:10年以降(計画期間内に協議を開始)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

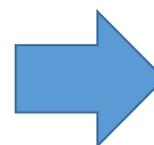
城崎地域・港地区

## 港中学校と城崎中学校の場合

中学校の小規模化への対応

優先度B

学校名	2020年度		2030年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
港中	62	3	46	3
城崎中	66	3	60	3
合計	128	—	106	—



学年	2030年度	
	生徒数	学級数
1年	33	1
2年	35	1
3年	38	1
合計	106	3

枠組み(案)の理由

- 1学年複数クラスにならないものの、各学級で一定の集団の生徒数が確保できる。
- 旧市町域を超えるが、市北部での隣接校であること。

課題

- 旧市町域を越える統合となる。
- 統合しても単学級となる。
- 通学距離が遠距離(10km以上)となる地域がある。

港中学校と城崎中学校の場合 **中学校の小規模化への対応** **優先度B**

例えば部活動では・・・

## 学校の小規模化により部活動の数が減少

学校名	運動部	文化部	備考
港中	3	1	野球部廃部(H28)
城崎中	4	1	卓球部廃部(H22)
(参考)豊岡南中	10	5	

- 部活動が選択できない(選択肢が少ない)
- 部員間での競争がない
- 団体競技のチーム編成ができない(試合に出られない)

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

城崎地域・港地区

## 港中学校と城崎中学校の場合



学校間距離

約4.3km

学校間移動時間(バス)

約13分 (20km/h)

最も遠い集落からの距離

三原 ⇒ 城崎中 10.3 km

二見 ⇒ 港中 9.9 km

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

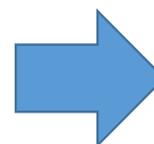
城崎地域・港地区

港小学校（仮称）と城崎小学校の場合

計画期間内(10年)に  
協議を開始

優先度C

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
港東小	50	5	58	6
港西小	42	4		
城崎小	153	6	88	6
合計	245	—	146	—



学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	24	1
2年	24	1
3年	25	1
4年	25	1
5年	25	1
6年	23	1
合計	146	6

枠組み(案)の理由

- 将来的に予測される複式学級の解消が図れる。
- 1学年複数クラスとはならないものの、20人以上の学級規模を確保できる。
- 旧市町域を超えるが、市北部での隣接校である。

課題

- 旧市町域を超える統合となる。 ○統合しても各学年が単学級である。
- 港東小・港西小は、2021年度に統合予定であり、再度の統合となる。
- 通学距離が遠距離(10km以上)となる地域がある。

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

城崎地域・港地区

## 港小学校(仮称)と城崎小学校の場合



学校間距離

4.2km

学校間移動時間(バス)

約13分 (20km/h)

最も遠い集落からの距離

三原 ⇒ 城崎小 10.2km

二見 ⇒ 港小(仮称) 8.8km

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

### 今後のスケジュール

※太文字は地域住民の意見を聞く場

時 期	内 容
2020年9月～10月	保護者、地域との <b>意見交換会</b>
2021年2月	審議会から答申(予定)
2021年4月～	答申内容の <b>地域説明会</b>
2021年9月頃	計画(案)の <b>地域説明会、パブリックコメント</b>
2021年11月末頃	計画策定・公表
2021年12月～	統合に向けた <b>校區別説明会</b>
2022年4月	計画スタート、 <b>統合検討委員会の設置調整</b>
2023年4月	学校統合(最も早い場合)

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

## (参考)地域独自の動き①

**奈佐小学校** 児童数 35人 (2年生児童は1名)

2019年12月に要望書が提出された(奈佐区、奈佐小PTA)

2021年4月に五荘小学校と統合予定

**港東小学校・港西小学校** 港東小児童数 50人  
港西小児童数 42人

2020年2月に要望書が提出された(港地区区長会、港3校1園PTA)

2021年4月に統合し、港小学校(仮称)となる予定(校舎は港東小学校を使用)

※児童数は2020.5.1 時点

#### 4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

## (参考)地域独自の動き②

**中竹野小学校** 児童数 23人 (2年生児童は0名)

2020年9月に要望書が提出された

(中竹野地区区長協議会長、中竹野小学校PTA会長、竹野認定こども園  
中竹野地区保護者代表から)

2022年4月に竹野小学校と統合予定

※児童数は2020.5.1時点

# **5. 保護者の意見**

**(保護者向け意見交換会から)**

## 小中学校のあり方意見交換会まとめ（保護者向け 城崎・港会場）

### 意見交換会での意見・質問とその回答（主なもの）

#### 《適正規模》

○中学校の2030年度の数字を見て、港中と城崎中の2校合計で1学年40人近くとなるが、保護者としては、できれば2クラスにしてもらえたらと思う。昔のような詰込みの授業ではなく、対話を重要視した授業ということであれば、先生に細かな対応をしていただける、1クラス20人程度が良いと思う。

⇒ 同感である。国でも40人いる1学級を少人数にしてきめ細かな学習指導ができるようにとの方向で検討が進められており、今後の国の動きを見ていきたい。なお、これは、学校規模ではなく、あくまでも学級規模の話であり、小さい学校規模が良いというものではない。

#### 《学校再編》

○今の子どもは、コミュニケーション能力が劣っていると感じる。そういうことを伸ばすためには、ある程度の人数がいた方がいいと前から思っている。城崎のメリットでもありデメリットでもあるが、生まれてから、こども園、小学校、中学校、ずっと同じメンバーである。仲の良い子とはいいが、うまく立ち回れない子はしんどい思いをされている方もある。ある程度の人数がいるというのはすごく大事なことだと思う。考え方としてはすごく理解できる。

私にとって、港西も港東もどちらも距離感が近い。友達もいる。子どもたちのことなので、共同生活をすれば、すぐに仲良くなるだろうし、今後、高校へ行けば豊岡や日高の子と一緒にになるので、そういう面でも、方向性はいいと思う。ただ、調整が必要なことはたくさんあると思う。

⇒ 地域の課題、子どもたちが学んできた環境の違い等も、ひとつずつ解消しながら進めていきたい。課題や疑問点があればどんどん意見として伺いたい。

○6年生は18人で少ない、隣の5年生は（大勢いて）いいなと思うのが率直な気持ち。外に出ている2人の子が、この現状を聞いて、「豊岡市に住もう」と思うのかどうかが一番気になった。どんな形であっても、「それなら帰ってきたい」と魅力のある小中学校であって欲しい。卒業した小中学校がなくなっている、いいと思える、帰ってきたときに、「人数が少なくなったから一緒になった」ではなく、「たくさんのことを学ぶためにこうなったんだ」と胸を張って言えるような学校づくりを目指して欲しい。

○これまで、1,000人を超える小学校と50人規模の小学校、全く規模の異なる学校を体験した。私としては、どちらもメリット・デメリットがあったが、両極端の中でどちらが良いかを聞かれると、少ない方がいいと自信を持って言える。しかし、少ない方がいいというのは、1,000人に比べて少ない方がいいという結論であり、少なすぎるのはたくさん問題がある。メリ

ット以上に子どもたちにさせてあげられないことがたくさんあると感じる。

中学校については、部活を選ぶ選択肢がない、もし合わなくても変える選択肢もない、そこが合わなくて学校に行きづらくなった友達がいたり、やろうと決めた部活には同級生が自分以外に1人しかいないという現状で、悩みに悩み、子どもたちはこれまでやってきた。

2つの地域を合わせても100人程度、決してそう大きい訳ではない。子どもは学校を選ぶことはできない。地域の方は、学校がなくなれば寂れるとか、想い、しがらみがあると思うが、それは大人の想いであって、学校に通う子どもたちにとって良い教育環境を作ってあげたいと強く思っている。スピード感でいうと2023年度、もっと早くてもいいのではと思う。

⇒ 審議会でも、「もっとスピード感をもって」という意見もいただいているが、地域の皆さんに丁寧に説明しながら進めていく必要があるため、ある程度の期間が必要である。地域から要望書を提出いただいたら、奈佐小や中竹野小のように、計画を飛び越えて地域の方の意思を尊重させていただくこともできると思う。

○複式学級解消のように、色々な方法を考え、少しでも今のままで行きたいというのが皆の気持ちだと思う。

その中で複式に関わらず、小学校同士、中学校同士の中で合併しないといけなくなった時に、メリット・デメリットを明示して欲しい。良いところ・悪いところが分からなければ、賛成す

ることもできないし、反対の意見やデメリットに対しては、みんな話合っ改善してくこともできる。今後もこのような会があるなら、そういった例を出していただきたい。

⇒ (メリット・デメリットを一部紹介) P T Aや地域などから、機会をいただければ、メリット・デメリット等も含め、具体的な説明をさせていただきたいと考えている。

### 《その他》

○(城崎小と港小(仮称)を再編したとしても)20年後、120人を切ることになり、また学校統合の問題を繰り返すことになると思う。抜本的な解決としては人口が増えることが一番課題となってくると思う。

地域の方々には、子どもを育てやすい地域づくり、人が住みやすいまちづくりについて、それぞれ工夫をしていただいて、そこに子どもが溢れてくるという未来があればいいなと思う。

⇒ 豊岡の人口減少の原因として、10代で都会に出て、男性は約半分が帰って来るが、女性は28%くらいである。女性に帰ってきて頂けるような、魅力的な街とするために、ジェンダーギャップの解消に向けて、仕事だけでなく、地域や、家庭等、街全体で意識を高めていく取組を行っている。

○息子が中学生で野球部にいるが、野球部でいえばチームが組めなくなる、吹奏楽はバンドが組めない、そうになってしまうと非常にかわいそうだし、都会の学校はいいなという話になっ

てしまう。例えば、部活だけでも合併する、合同チームを作るということは考えられないのか。

⇒ 合同チーム、合同練習も含めて、地域の方、保護者の方の意見もいただきながら、協議をさせていただけたらと思う。現時点で、具体的な方向性があるわけではないが、あくまでもそういったことはできるということである。

#### アンケートでの意見等（主なもの）

- 本日の説明にあったように、学級規模が20人以下になると「小規模校の強み」よりも「小規模ゆえのデメリット」の方が大きいと感じる。できるだけ幼少期から多様な意見や考え方、人間性に触れることは大変重要であると考えます。
- 児童・生徒数の減少は、現在の推計よりも早く進行すると考える。その中で、少子高齢化が急速に進む地域で、地域の核となる学校がなくなることは、保護者・地域住民にとっても複雑であると思う。多様な立場・方面からの意見を求め、子どもを中心に据えた丁寧な議論を経て合意形成をする以外にはないと思う。
- 自分と違う考えや価値観と出会い、すり合わせを行う中で自分の視野を広げ、新たな発見のできる学びの環境は、子どもたちの育ちに不可欠だと再認識できた。
- 現在、私の子どもも複式学級で過ごしている。子ども自身は統合について、嫌がっている部分もあるが、親としては、より多くの同級生と過ごしてほしいと思っている。
- 少ない分、先生が目が行き届き、しっかり教育ができるのではないかと思う反面、親の世代が子どもの頃のような活気がなく寂しい。競争意識の欠如が心配。
- 生徒数が極端に少ないと、人間関係で問題が起こった時などクラス替えができなく、学校へ行き難くなる。部活を選ぶ選択肢が少なくなってしまう。子どもの数が減少してきたら、統合はいいと思う。
- 今はとても細かく子どもを見ていただけていると思うので、本当にありがたい。反対に、少人数から多くなることに少し不安もある。
- 港東小と港西小の統合後、現港東小学校の校舎を使用すると決めたのは、こども園、中学校と関係が取りやすいためであった。それならいっそ小中一貫校にしてもよいかと思う。
- 部活動は学校が決めたものしかできないのか？子どもたちがやりたい部活の意見は取り入れられないのか？
- 通学の手段が心配だが、中学校で部活を選べることも必要。